

令和8年度

大喰小学校

「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

児童・基礎・基本を身に付け、学習したことを活用し、豊かに表現できる。
(基礎の定着・活用する力・説明する力)
教師:児童の「やってみたい!」「なぜだろう?」を大切に授業づくり
(発問の工夫・対話による協同的な学び・ICTを活用した個別最適な学び)

校長

近藤 江利子

学力向上推進員

片山 和奏

【各校の取組状況の把握について】

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取り組み状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○現在学習している単元は理解できている児童が多い。 ●応用したり、継続したりすることが難しい。 ●友達の意見や考えを聞く力が十分に身に付いていない児童がいる。	・目の前のテストのためだけでなく、これまで学習した内容を繰り返し取り組んでいくことで、既習内容の定着を図る。 ・学年相応の語彙を習得できる。 ・発達段階に応じて、聞く姿勢や聞き方を身に付けていく。	・デジタル学習ソフト(キュービナ)やプリント学習等、個別最適な方法で繰り返し取り組んでいくことで、学習内容の定着を図る。 ・教科書に掲載されている「言葉の宝箱」を使用して日記を書くなど、習得した語彙を活用する力を身につけさせる。 ・事前に聞く視点を提示したり、静かになるまで待つなどの児童が聞きやすい環境を整えたりする。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の思いや考えを発表したり、説明したりすることができる児童が多い。 ●思いはあるものの、自分の言葉で表現したり、根拠をもって説明したりすることを苦手としている児童が多い。 ●身に付けた知識・技能を広げたり、深めたりすることができない児童が多い。	・どの教科においても、根拠をもって自分の考えを発表し、相手に伝わるように話すことができる。 ・児童が自ら身に付けた知識・技能を活用し、問題を解決しようとする。	・根拠を問う発問や児童と児童をつなぐ発問など、発問の工夫をしていく。 ・カリキュラムマネジメントに取り組み、児童自ら身に付けた知識・技能を活用しようとする場面を計画していく。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○素直な児童が多く、与えられた課題に一生懸命取り組むことができる。 ●新しい課題に直面した時に、自信がなく(躊躇してしまい)、チャレンジすることが難しい児童が多い。 ●自分の得意なこと・興味のあるものには一生懸命取り組むが、苦手なことや興味のないことには消極的になる児童が多い。	・間違いや失敗を恐れず、積極的に発信し、自らチャレンジすることができる。 ・新しい課題に対しても、試行錯誤しながら粘り強く取り組むことができる。 ・自分の苦手なことにもまずは挑戦してみようとする。	・学級会を中心に、話し合い方を身に付けたり、自己決定の場をつくったりすることで、自分たちの力で達成できたという成功体験の場を設定する。 ・教師は「見守り役」に徹し、できたことを価値づけし、児童一人一人の自己肯定感を上げていく。 ・具体物の提示や導入の工夫など児童が興味をもてるようにする。			